

# まち・ひと・しごと新聞

第8号

発行

三島信用金庫

駿東郡長泉町下土狩96-3

055-973-5730

制作

県立韮山高等学校写真報道探究部

日本大学三島高等学校新聞部

県立熱海高等学校報道部

県立沼津東高等学校新聞部

協力

静岡県東部地域局



## 『100年後を見据えた町づくり』

今回、韮山高校写真報道探究部は、浅田ファームを経営し、自然農法に取り組んでいる浅田藤二さんに取材を行った。農家になるまでの道のりや、自然農法、地域活性化について話を聞いた。

### 地元愛が地域を支える

浅田ファームを  
経営している浅田  
藤二さんは、46歳  
の時、地方公務員  
から専業農家に転  
身した。現在、自  
然農法による農業  
で伊豆地域の未来  
を支える活動を行っ  
ている。  
「荒廃農地や空  
き家が増え、衰退  
していく地域を目  
の当たりにし、危  
機感を抱きました。  
この責任を自分が  
取り、何か行動を  
起こさなければも  
う間に合わない  
と思い、飛び出しま  
した」最初は何を  
企画しても、「ど  
うせだめだ」「無  
理だ」と言う人た  
ちもいたという。  
「できない理由よ  
り、まずはやって  
みるのが大切で  
す。自分から動い  
て、実行しなければ  
何も始まりませ  
ん」と力強く語る  
浅田さん。上手く  
いかないこともあ  
つたが、次の成功の  
データ取りだと自  
分に言い聞かせ、  
様々なことに



自然農法への思いを語る

## 自然を先生に

自然農法を行うには、土が重要です。土の好気性菌が耕され、ふかふかで根が伸びやすい土ができます。そのために必要なのは、発酵させることです。草や米ぬかなど土、空気を混ぜて発酵を促します。すると、土の日和見菌が好気性菌と同様に活動し、良い土ができるのです。農薬や肥料は使いません。特に窒素分の多い肥料の多投は、野菜を

苦くまずく  
自然農法では、自然を先生にします。仮説を立てて試みます。すると、何年か経って自然が答えを返してくる。やり始めた頃は大変でしたが、何度も試して良い土ができました。手間暇かけて育てた米や野菜がよくできたときは、涙を流すほど嬉しかった。今では、他県の農家の方々が視察に来るようになりました。

### ～プロフィール～

浅田 藤二 (あさだ とうじ)

浅田ファーム経営者兼伊豆市議会議員

伊豆市湯ヶ島在住。オーガニック作物の栽培による伊豆半島のブランド化を推進。また、湯ヶ島地域づくり協議会メンバーとして活発に活動するほか、株式会社を仲間とともに設立するなど、地域活性化に取り組んでいる。



熱く思いを語る浅田さん

浅田さんは、誰もが「ここで暮らすと楽しいよ」と言える地域にするために、様々な活動に取り組んでいる。例えば、自然農法によって栽培された野菜や米をブランド化するこ



▲笑顔で質問に答える

5年前には、伊豆半島を「A級グルメ半島」にすることを目指し、「天城を食す」というイベントを開催。天城の食材を活用した料理を提

供した。さらには、地域の雇用を生み出し、やりがいをもって働くことができる場所を作るために会社を設立したり、伊豆総合高校とコラボして



浅田ファームの夕景

## 素晴らしい伊豆を未来へ

地域活性化のためのプロジェクトを進めたりしている。

このような活動で交流人口を増やすことで、持続可能な地域を作ろうとしている。これからの地域活性化に向けて浅田さんは「若い人たちの力が伊豆半島に必要です。生まれ育つたこの地域を豊かに、元気にしてほしいです」と熱く語った。

### 編集後記

取材を通し、浅田さんの地元愛や、自然農法に懸ける思い、自ら行動することの大切さを感じる事ができました。

今回、取材に協力してくださった方々に、この場を借りてお礼申し上げます。未熟な点も多いですが、楽しんでいただければ幸いです。

「一面担当」  
県立韮山高校  
写真報道探究部



# 三島と世界をつなぐ

## 三丸機械工業株式会社

普段私たちが飲む牛乳やジュースにはホモジナイザーという機械が使われている。三丸機械工業では、さまざまなホモジナイザーを開発し、社会で貢献している。仕事内容やSDGsへの取り組みについて代表取締役の鈴木隆さんに話を伺った。

### お客様を第一に

大正7年に設立、創業100年を越えた三丸機械工業株式会社、代表取締役の鈴木隆さんに話を聞いた。

日ごろから経営にお



自身の目標を語る鈴木さん

いて大切にしていることを伺うと「クライアントの笑顔がイメージできるかを大切にしてい

が、良い機械。相手が求める機械を開発するために、クライアントと連携を取りながら、



鈴木さんと記念撮影

細かい要求に「売った後の」と話してくれた。そして「売った後の」お付き合いも大切にしている。定期的なメンテナンスも実施しているが、クライアントの生産ラインを守ることが大切な仕事であり、故障があれば海外でも迅速に現地に行き修理を行う。

これからの時代を生きていくために必要なことについて尋ねると「地域に必要な企業と関わること。私たちが中小企業は地域と離れることはできないから、三島市にあるウイスキー



地域の未来を話し合う様子

も事業展開している。さらに「進化するAIやロボットとどのような向き合っていくかも課題であるが、働きやすい環境の提供や社員に愛社精神を持ってもらえるかが重要。そのため人間性を重視した採用を行っていきたい」

### 編集後記

日大三島高等学校 今回、三丸機械工業株式会社、代表取締役の鈴木隆様に取材しました。その中で、モノづくりへの情熱や諦めないことの大切さを学びました。また、一度県外へ出た人もこの企業を知ることにより、再び地元へ戻るきっかけになれば幸いです。

最後にありますが、このような貴重な機会を提供してくださった三島信用金庫様、静岡県東部地域局様、本当にありがとうございました。

# 理想の品質を追究する



鈴木さんイチ押しホモジナイザー

ホモジナイザーという聞きなれない機械について

## おしごとを支える

鈴木さんに尋ねると「ホモジナイザーとは液体中の粒子に高圧力を加えることで、小さく均一にする装置だ。それにより食品であれば舌触りをなめらかに加工することができ、牛乳・ヨーグルトなどの乳製品、ケチャップ・ドレッシング・ソースはもちろん、清涼飲料水にも使用されている。もちろん若者が好きなソフトクリームでも使われている。多くの食品は、なめらかでとろける方がおいしいよね。おいしい食品を作るにはホモジナイザーが欠かせ

## 広がる活躍の場

さらに最近では「医薬品や化粧品などだけでなく、半導体やカーボンナノチューブにも使用されている。そのため商品は日本だけでなく、アメリカ・イギリスをはじめ東南アジア諸国にも納品している」と、最初は乳製品から始まった会社であるが、時代のニーズに合わせて事業を展開していると語った。

## 次の100年へ

最近では事業展開にあわせて「新規工場の



三島初のウイスキー蒸留所

ホモジナイザーでは日本では最古参の企業であり、国内3本の指に入るほどの実績ある企業である。その秘訣としては「モノづくりは、夢の共有とあきらめない気持ちが大切。さらにクライアントに寄り添い、ニーズに合わせた製品の提供と、故障などへの迅速な対応」と教えてくれた。

設計・建設」、「働き方改革に合わせた社員育成」、「地域貢献のためのボランティア活動」に力を入れているとのことだ。

二面担当 日本大学三島高等学校 新聞部







# 沼津を活気的な街へ

## REFS・Janescape 小松浩二さん

### 無農薬野菜の 美味しさの秘訣とは

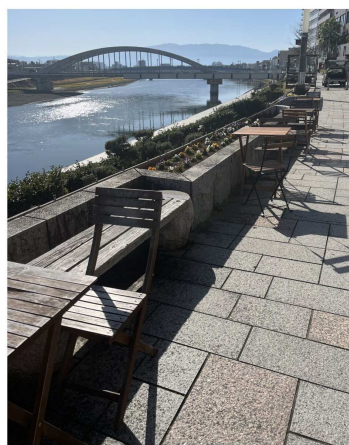
株式会社「REFS」の店主として活動し、一般社団法人「Janescape」の代表理事を務めている小松浩二さん。今回は、地域を活性化するための取り組みや活動を開始した経緯、これからの目標などについて話を伺った。

小松さんには2009年にREFSを開店し、農薬不使用で厳選した静岡県東部の野菜を集めている。



▲小松浩二さん

また、「地域の良さを地元の人だけでなく、県外の方にも伝えていきたいです」と強い思いを述べた。



▲狩野川河川敷に机と椅子が設置された

### みんなが楽しめる 沼津に

### 公共の場を 美しく

小松さんは、行政と協業して沼津市内各所で様々な取り組みを行って



▲整備が進む沼津市中央公園

設置などがされている。空間を綺麗に使用していただきたいという思いから、木製の椅子にこだわっている。公園では大規模な再整備が進められており、大階段や芝生のセンター広場の利用、卓球台や机、木の椅子の

いる。沼津市中央公園では大規模な再整備が進められており、大階段や芝生のセンター広場の利用、卓球台や机、木の椅子の

## 一杯のスープをつくる時間



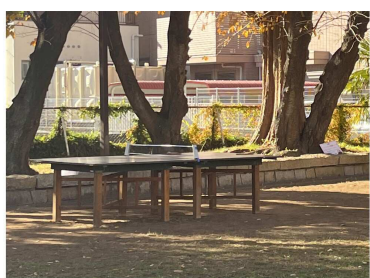
▲畑仕事を体験する



▲完成した器

REFSがこれまで実施してきたイベントの中に「一杯のスープをつくる時間」がある。このイベントは、スープを飲む器を作るために木を切る過程から始まり、器が出来上がるまでの約半年間スープの具材となる野菜の生産者の方の手伝いをするというものだ。

このイベントについて小松さんは「最初は川の始まりを見るために山へ行き、その後猟師さんと狩りを行ったり、海に行き塩を作ったりしました。時間はかかりませんが、参加者の方に時間をかけて作ったものは美味しいというところを知り、今も野菜を買いに来てくださっている方もいます」と話した。



▲卓球台が設置された

### 様々な経験を してほしい

最後に小松さんに今後どのような活動を行ってほしいか、高校生に向けて伝えたいことを伺った。小松さんは「今年の八月に沼津で始めた取り組みである『まちのセントラルキッチン』をさらに稼働

させていきたいです。また、狩野川の河川敷の発展や中央公園の再整備・イベントの活性化にも力を入れていきます。高校生に伝えたいことは様々な経験をしてほしいということです。普段会うことのない人に会えば、今までの自分にはなかった発見をすることが出来ます。たくさんの方に触れ、学校でも地域でも大いに楽しみ、素敵な思い出を作ってください」と話してくれた。

## 編集後記

今回の取材を通じて、小松さんのまちづくりにかける思いや活動するうえで感じる沼津の課題、現在沼津で行われていることなどについて知る事ができ、沼津により興味を持ちました。このような貴重な機会を提供してくださった皆様に感謝いたします。

【担当】  
沼津東高校新聞部